

共生・公正・創造



東日本タイムズ号外

<http://www1.biz.biglobe.ne.jp/~JRTU-HWU/>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NIT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

【シリーズ17】

坂入事件は「坂入 (=被害者) が間違い、浅野 (=拉致・監禁者) が正しい」?!

いわゆる「東京問題」に端を発したJR東労組における松崎・本部派 (= JR革マル左派) と嶋田たち派 (= JR革マル右派) の対立は容易に解消されず、事態は深刻化の一途を辿っているように傍目には見える。

しかし、JR東日本革マル問題ウォッチャーの間では、「なにぶんにも、かつて“JR本州三社民営化法案”の国会無事通過を企図して、『革マル派によるJR東労組OB坂入充拉致・監禁事件』狂言を演じてまでして世間を騙そうとした前歴のある連中がやっていることだから、額面どおりにはとても受け取れない」といった疑い深い観方が大勢を占めているようだ。

そんな中で、千葉地本と同様に、松崎・本部派が強引な手法で主導権を奪取したJR東労組横浜地方本部管内で、数少ない有力な「嶋田たち」派分会である「JR東労組中原電車区分会」は、それだけに松崎・本部派の総攻撃を受け、激しい集中砲火を浴びた。その中原電車区分会に対して、先に、松崎・本部派の画策によって役員辞任に追い込まれた戸部純也横浜地本前情宣部長から「東労組の未来のために」と題した“激励と連帯”の手紙が届いたことを、平成13年10月1日発行の同分会機関紙『JREU 情報中原』(NO.127)が公表した。...(以下、略=本紙編集者)

坂入充氏は、身柄が革マル派の手許にあった(?)当時、自分が40年以上に亘り松崎氏の薫陶を受けた革マル派の党员であること、また“拉致・監禁”されたのではなく、革マル派中央と討議し、JR革マル派との間の意思疎通を図るのため自ら出向いたなどの趣旨の自筆署名手紙をマスコミや労働界の要所に送った。他方、2000年12月20日付革マル派機関紙『解放』(号外)は、12月8日開催の大討論集会「JR労働運動に炎を！」で演壇に立った坂入充氏の写真付きの大きな記事と、JR労研中央幹事会事務局長坂入充名の論文『私を利用し、革マル派を権力に売り渡すJR総連の一部指導者を弾劾する！』を掲載している。また、『浅野』についても、2000年12月18日付革マル派機関紙『解放』(第1649号)が、革マル派が12月3日、都内中野区立中央図書館二階会場で開催した「革共同政治集会」に他の2同志(同年10月10日、共に九州労本部に乱入して暴力・窃盗行為を働いた小西・神保)と一緒に参加して、『労働組合の産報化に抗して戦闘的労働者は燃えよ！』と題する特別報告を行ったことを報じている。

JR総連・東労組が「坂入事件」を一向に総括しようとしないうこと、帰宅した坂入氏から事件の真相、約1年半に亘る革マル派の手許にあった間の諸行動・言論を詳しく調査し、結果を自組合員はもとより、国民及び全JR労使関係者に一切報告しようとしないうという同労組の“異常かつ不可解極まりない”対応の謎を解く手がかりは、どうやらこの辺りに隠されていたようである。

ともあれ、横浜地本役員との会話の中で迂闊にも「坂入事件」の秘密と、「役員層に革マル派が相当浸透」(警察庁警備局長国会答弁)の“事実”を漏らしてしまったJR東労組中央執行委員の氏名まで明らかになった以上、JR総連・東労組のこれ以上の類被りは、もはや「絶対に許されるべきことではない」ことは、理の当然であろう。

なお、「坂入事件」に関しては、同氏が革マル派によって拉致監禁(?)される“数日前”に都内某所で松崎氏と坂入氏、それに“JR東日本最高幹部”が加わっての「酒席・会食」が行われた、というおよそ信じ難い噂まで流れている。

「革マル派による南雲巴こと坂入充氏拉致・監禁事件」は濃い霧に包まれたままであり、事件の背後に潜む謎を解くことは容易ではないようである。

< JR東日本労政『二十年目の検証』77ページから81ページより抜粋 >

民主化の声・声・声・・・

2005.11.08

その17

根深い！長野地本の確執問題！

「土屋さん人権蹂躪問題」解決なくして団結無し！

東労組本部と長野地本の溝が深まる一方であることは既報したが、そこには根深い確執の背景があるようだ。東労組機関紙「緑の風号外（9月28日付）」に、今年7月の長野地本大会での関書記長の総括答弁が載っている。

美世志会を早く呼びたいが、土屋さん、丸山さん、郵送物の問題もあるから、4.15の調査委員会報告を出して、指導していただき、その後に、美世志会にきていただき、闘いの報告をしていただくことで確認したい。

ここで言う土屋さんとは、2003年度東労組本部大会の代議員選挙をめぐる人権蹂躪事件のことであろう。そのあらすじは当時の長野地本の出した情報によると次のとおりである。

2003年5月10日～13日、本部運輸車両部会の常任委員会が開催され、長野地本からは地本部長の土屋忠幸さんが出席した。会議の中で、土屋さんが本部大会代議員選挙に立候補したことが問題視され追及された。その追及（人権蹂躪）の実態は、「立候補は組織破壊ということを認めよ。認めない限りこの場から解放しない。地本に対しても闘うことを意思表示せよ」というものだった。土屋さんに対する追及行動は、（連泊会議の中で）再三繰り返され、土屋さんは「うつ病」になり入院してしまった。

これに対して長野地本は、『土屋さんが病気になるほど追及する機関運営は、組合活動から逸脱した行為であり断じて許すわけにはいかない』、『今回の事態は、正に労働組合運動とは無縁な人権蹂躪である』と見解を出した。

問題になっている2003年4月15日の長野地本開催の反弹圧集会で、出席した浦和電車区分会代表者にヤジがとんだことは既報の通りである。そのヤジとは、『浦和事件では実際に退職強要があったのではないか』ということらしい。土屋さんを「うつ病」にまで追いつめる東労組だから、たぶん、浦和電車区でも被害者Y君を退職にまで追いつめたのであろうとヤジの主は思ったのであろう。

さらに、本部との確執の背景には、2002年10月31日に起きた8人の中央指導部の辞任を長野地本が指示したことに端を発する。本部と長野地本との確執は根が深い。

民主化の声・声・声・・・

（続く）